

ま ち の 話 題

豊岡

フナの稚魚1万匹放流 コウノトリの野生復帰に 役立てたい

10月3日、県立香住高等学校漁業科栽培漁業コースの生徒7人が、自分たちが育てたフナの稚魚約1万匹を、ククイ湿地(下宮)など市内の湿地4カ所に放流しました。

このフナの稚魚は、昨年、出石川で円山川漁協と共同で捕獲した親魚から、今年7月に産卵・ふ化したもので、生徒たちは餌やりやふんの除去などの世話をしてきました。

尾内亮太くん(3年)は、「稚魚が人工藻にひっかかって死ぬなど、養殖には苦労しました。自分たちが一生懸命育てた稚魚がコウノトリの餌になったらうれしいし、フナも産卵して増えてほしい」と熱く話しました。



ククイ湿地にフナの稚魚を放流する生徒たち

城崎

コウノトリ育むお米を学校給食に 環境にやさしい お米はおいしいね!

環境創造型農業の推進の一環として、市が新たに商標を取得した「コウノトリ育む」農法により栽培された米を、今年初めて市立すべての小・中学校の学校給食に導入しました。これは、安全・安心な給食を提供し、食や環境に対する一層の理解を深めることを目的に実施したもので、10月11日、初めて給食に「コウノトリ育むお米」が登場した城崎小学校では、食べる前に先生から米についての説明を受けた後、一斉にいただきました。新米を食べた児童たちは口々に「おいしい」「みずみずしい」「甘い」と喜んでいました。今後は月に1〜2回程度登場する予定です。



初めて登場したコウノトリ育むお米を味わう城崎小学校2年生の児童たち

竹野

秋の味覚体験と竹ドームづくり教室 竹ドームづくりに感動! 旬の味覚に大満足!

9月30日、秋の味覚体験と竹ドームづくり教室が竹野町森本の竹野南森林公園で開催されました。

参加した12人は、竹をナタやノコギリで加工し、組み合わせ、円周約18メートルの竹ドームづくりに挑戦しました。

休憩時間には、焼き芋体験をして試食し、昼食では、旬の食材を取り入れた栗ごはんや川ガニなど、秋の味覚を満喫していました。参加者の一人は、「興味のあつた竹ドームづくりは、楽しいひとりで、完成した時は感動しました。焼き芋や昼食は、とてもおいしかったです」と笑顔で話していました。



竹ドームの完成を喜ぶ参加者たち

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係まで連絡ください。



ミニ列車の乗車を楽しむ子どもたち

日高

第1回たじま子どもまつり

たじまの子どもたち みんなあつまれ!!

10月6日、第1回たじま子どもまつりが県立但馬ドーム多目的グラウンドで開催され、約2,000人の親子が訪れました。

この催しは、たじま「子育て」ネットが地域での子育てを応援するため初めて開催したもので、同まつり実行委員長の小西一司さんは開会宣言で「生活の基盤である家庭でのふれあいを大切にしてほしい。毎月第3日曜日は『但馬家庭の日』と呼びかけました。会場では、子どもたちがミニ列車に乗車したり輪投げやトランポリンで遊んだほか、ステージイベントやフリーマーケットなどがあり、親子同士の交流を深めました。

出石

秋の稲刈り体験

稲刈りって難しいなあ



稲刈りに挑戦する子どもたち。もちつき大会が楽しみ

10月5日、秋の稲刈り体験教室が出石町福居地区の田んぼで行われ、小坂小学校5年生29人が稲刈りに挑戦しました。

これは、社会科体験・総合的な学習の一環として地域の方の協力を得ながら毎年行われている行事で、約4アールの田んぼに無農薬栽培されているもち米を刈りました。

当日、箱山憲明さん(出石町福居)に稲の刈り方などの説明を受けた後、子どもたちは鎌を片手に、次々と稲を刈っていきましました。

森本悠斗くんは「見ていると簡単そうだったけど、やってみると難しかったです」と話していました。収穫したもち米は、11月の学校行事のもちつき大会に使われる予定です。

但東

あまたに
天谷ひまわり畑

季節外れのヒマワリ

9月下旬から10月上旬にかけて、但東町天谷の県道沿いの休耕田で、ヒマワリが満開となり、ドライバーの目を楽しませました。

このヒマワリは、農林水産省が農地などの保全管理を支援する「農地・水環境保全向上対策」の一環として、4月に発足した「天谷地区資源保全隊」が取り組まれたもので、約23アールの休耕田は、8月初旬にまかれた約6万本のロシアヒマワリが満開となりました。同保全隊代表の森田康夫さんは「初めてのことでどうなるのか心配しましたが、きれいに咲いてくれました。今後も資源の保全に向けて取り組んでいきたい」と話していました。



訪れる方の対応やヒマワリの状況を確認する保全隊のメンバー